

東

心

東山区八十周年記念誌

題字：森清範 清水寺貫主



東山区80周年を迎えて

西陽を受けて紫がかって見える東山。やわらかな光を受けてきらめく鴨川。

その様を、江戸時代の儒学者、頼山陽が表現したのが、京都の自然の美しさを称す「山紫水明」の由来とされています。

東山区には、まさに山紫水明そのものの自然景観、情緒あふれる美しい町並み、細やかな心で結ばれた地域の絆、世界中から訪れる人々を温かく迎えるおもてなしの心が、しっかりと息づいています。

その東山区が誕生80周年を迎えた喜びを、区民の皆様お一人お一人と心から分かち合いたいと思います。

東山区が、下京区から分区して誕生したのは昭和4年。その翌年には昭和恐慌が起こり、以後、第二次世界大戦、その後の復興、更に高度成長と、我が国は渦巻く時代の荒波を乗り越えて参りました。その中であって東山区では、歴史と伝統に培われた知恵と力を礎に、世界に誇る文化や産業が育まれ、やすらぎとふれあいのまちづくりが進んで参りました。

ひとえに区民の皆様の、高いお志と御尽力、地域への愛情、そして区政への多大な御協力の賜物であり、心から敬意と感謝の意を表します。

私は、今後とも皆様と共に汗する「共汗」により、東山区に象徴される京都の優れた「地域力」、「人間力」を活かし、東山区、そして京都の輝かしい未来を切り拓いて参る決意であります。引き続き御支援、御協力をお願い致します。

更に50年後、100年後も、ここに暮らし、訪れる全ての皆様が、美しい東山や鴨川の眺めを愛し、「住んで良かったね」、「訪れて良かったね」と心から実感できる東山区を、これからも共に築いて参りましょう。

京都市長

門川 大作



記念誌の発刊にあたって

今年、東山区は、昭和4年4月に下京区から分区して、80周年という記念すべき年を迎えました。

悠久の歴史と伝統が脈々と受け継がれ、四季折々に彩られる豊かな自然と歴史的な町並みが調和し、日本はもとより世界中の人々を魅了する東山区。その魅力の源は、何よりも東山区民の皆様の日々の活発な地域活動であります。

今日、少子化の進行により、小学校の統廃合が進みつつありますが、東山区80年の歴史は、各学区単位での自治活動の歴史でもあると言えます。そのため、東山区80周年記念誌の発刊にあたりまして、学区に焦点をあて、東山区の11学区の概要や小学校の沿革、学区内の地域活動、文化財や伝統行事などを掲載致しました。改めて学区の良さ、地域の魅力を再発見していただき、東山区を一層愛する機会にさせていただければ幸いです。

なお、作成にあたりましては、貴重な写真や資料の提供をはじめ、御協力をいただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

現在、東山区役所では、東山区80周年を迎えた今年から、区民の皆様にご協力をいただきながら、平成23年度から10年間のまちづくりの指針となる次期東山区基本計画の策定に取り組んでいます。

東山の未来を10年また10年と区民の皆様と共に積み上げながら、更に魅力あふれる輝かしい東山区を創り上げて参りますので、皆様方の御協力を賜りますようよろしくお願い致します。

東山区長 荒木陽子



東山の歴史と文化

東山は、今日広く京都きっての神社仏閣をはじめとする、多くの文化財が集積している地域として知られている。ある推計によると、人口一人あたりの面積から、多分日本一だろうとも言われている。

それだけに毎年、実に多数の人々が全国、いや全世界からこの地域を訪れる。これもまた京都一だと言われているのである。

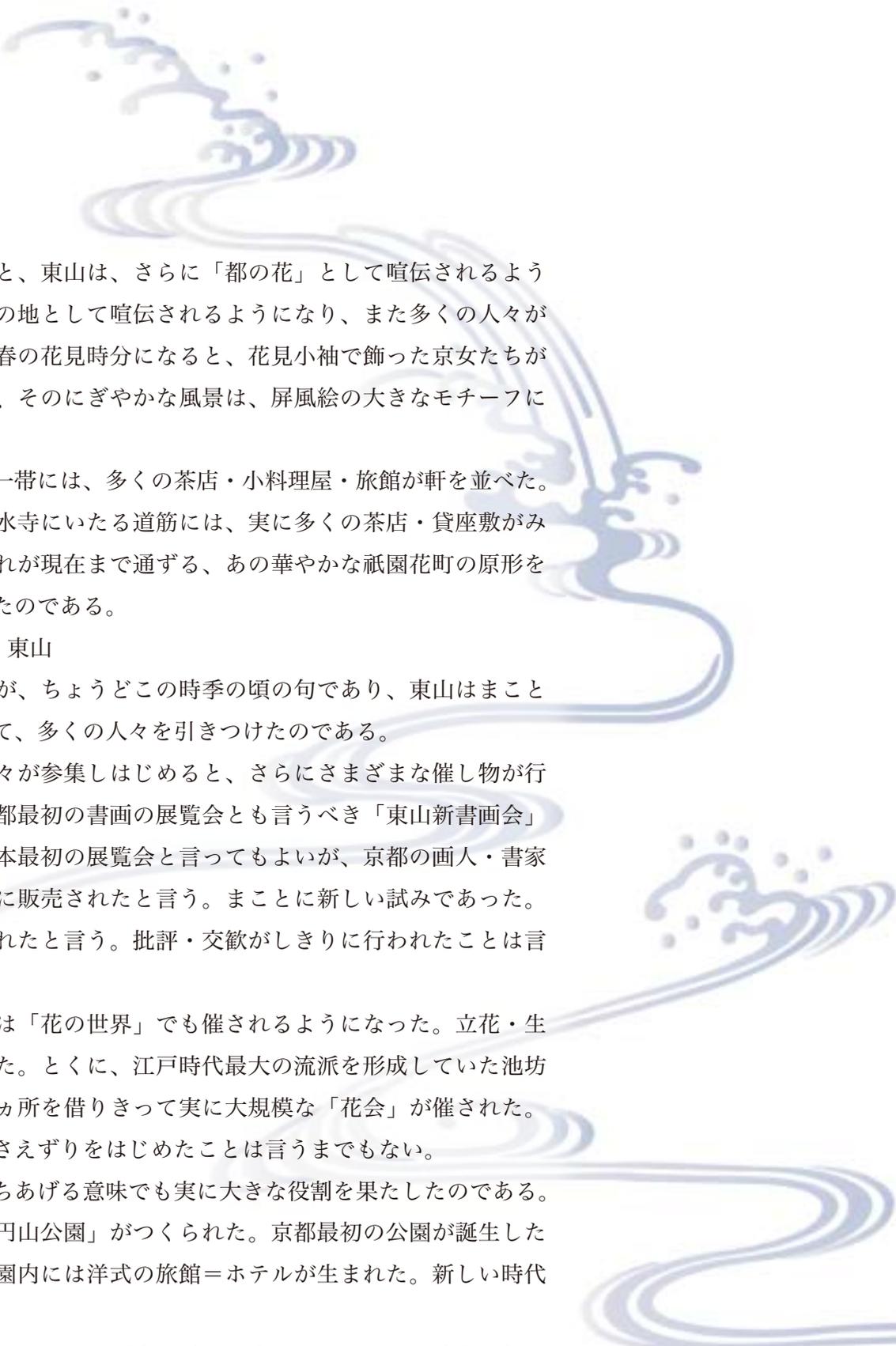
ところで、東山が今日のような景観を作りはじめたのはいつ頃のことであろうか。少なくとも最初のきっかけは、平安時代に入ってからのことだから、もう千年以上の時間を経過している。したがって、その歩みは長く、しかも実に奥深いものがある。

東山の景観を形成したきっかけは、平安京の建設であった。奈良京、長岡京に続く首都として建設された。しかもこの首都は巨大であった。人口はしだいに増加して15万人を数える人々が住んだと言われる。田園風景から一挙に大都市に変貌したのである。むろん、これだけの当時としては恐ろしいほどの巨大な人口が集中すると、またこれに必要な多くの物資が各地方からもたらされた。物資や人々の交流が進むと当然ながら、多くの病気が発生した。また実際、これによって多くの人々が死んだ。その上、犯罪も多数発生している。この死んだ人々を埋葬するためには、これまた巨大施設が必要となった。その埋葬施設が東山につくられたのである。それが東山の鳥部野である。ここには埋葬及び施設を管理する巨大な国営寺院があり、一切を取り仕切った。ここで多くの人々が安らかな眠りについた。

やがてこの鳥部野の風景は、百年余も過ぎると、大きく変化しはじめた。それは東山の周辺に、美しい藤原貴族の別業（別荘）が陸続として営まれはじめたからである。その上、早や花の名所としても知られるようになっていた。ここには貴賤を問わず、多くの人々が訪れはじめており、すでに一部では「東山眺望」という言葉が生れはじめていたほどである。

中世に入ると、「花」の関心は一層広まり深くなりつつあった。東山では「花巡り」がしきりに行われており、有名な世阿弥作の「西仁桜」にも「きのふは東山地主の桜を一見仕りて候」と謡われるほどにもなっていた。言うまでもなく、清水寺の地主神社の桜であるが、この地主神社では、しばしば連歌会が催されていた。東山は、もうこの頃になると、文学・芸能を盛りあげ、多くの文人たちが参集しはじめていたのである。





近世の江戸時代に入ると、東山は、さらに「都の花」として喧伝されるようになる。東山一円が行楽の地として喧伝されるようになり、また多くの人々が実際に押し寄せてきた。春の花見時分になると、花見小袖で飾った京女たちが桜のもとで舞を舞うなど、そのにぎやかな風景は、屏風絵の大きなモチーフになるほどだった。

これにしたがってこの一帯には、多くの茶店・小料理屋・旅館が軒を並べた。とくに祇園社門前から清水寺にいたる道筋には、実に多くの茶店・貸座敷がみられるようになった。それが現在まで通ずる、あの華やかな祇園花町の原形をここにつくることになったのである。

ふとん着て寝たる姿や 東山

有名な嵐雪の句であるが、ちょうどこの時季の頃の句であり、東山はまことにやわらかい風情をみせて、多くの人々を引きつけたのである。

さて、東山に多くの人々が参集しはじめると、さらにさまざまな催し物が行われるようになった。京都最初の書画の展覧会とも言うべき「東山新書画会」の開催がそれである。日本最初の展覧会と言ってもよいが、京都の画人・書家の新書画を展覧し、同時に販売されたと言う。まことに新しい試みであった。これは、春秋2回も催されたと言う。批評・交歓がしきりに行われたことは言うまでもない。

こうした東山での展覧は「花の世界」でも催されるようになった。立花・生花の作品発表会が行われた。とくに、江戸時代最大の流派を形成していた池坊流では、円山の貸座敷数ヵ所を借りきって実に大規模な「花会」が催された。洛下の京雀たちが、一層さえずりをはじめたことは言うまでもない。

東山は新しい文化を立ちあげる意味でも実に大きな役割を果たしたのである。のち明治初年ここには「円山公園」がつくられた。京都最初の公園が誕生したのである。そしてこの公園内には洋式の旅館＝ホテルが生まれた。新しい時代が訪れていたのである。

東山は古代から近代にいたる長い歴史の道程の中で、それぞれの時代に顔を出して大きな役割をはたしてきた。日本一と言われる文化財の集積は、その歴史の証しである。われわれはこれをどう守り、未来の発展につなげていくのか、一喜一憂することなく、東山区民の粘り強い支援が強く期待されるのである。

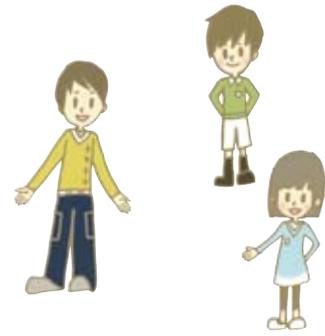
武庫川女子大学名誉教授
東山・まち・みらい推進会議議長

森谷 尅久



東

山区



～光・宝・誇り～

1200年の悠久の歴史の中で四季折々に彩られる豊かな自然と歴史的な風情のある町並みが調和し、世界遺産や国宝などの文化遺産が数多く集積する東山区。

1年を通じて国内外から多くの人々が訪れ、テレビや雑誌など様々なメディアで取り上げられますが、東山区はとて奥深く、まだまだ知らない地域の魅力、そして未来へ引き継ぎたい「光」や「宝」がたくさんあるのではないのでしょうか。

東山区役所では、東山区80周年を契機に、住んでいる地域や学区の良さを改めて見つめ直し再発見していただき、東山区を更に愛していただくきっかけになればという思いを込めて、「東山区の光（宝）大募集!!」として、東山区民の皆様から地域の光や誇りとなるものを募集しました。

たくさんの応募をいただきました情報の中から、東山区の光、そして地域や学区の光や誇りを、推薦していただいた方のメッセージを交えて紹介します。



鴨川



多くの人々が訪れ、枝垂れ桜やユキヤナギといった花々も美しく、四季を感じる場所です。景色も美しく、街の中にながら自然に接することができる憩いの場となっています。



東山連峰



東山区の名前の由来でもある東山。左京区から伏見区まで三十六峰からなり、江戸中期に松尾芭蕉の弟子である服部嵐雪が、なだらかな東山の姿を見て、「布団着て寝たる姿や東山」と詠みました。子どもたちに自然にふれさせる絶好の場所であり、東山トレッキングコースでは山歩きを身近に楽しめます。

伝統産業



東山区は京都を代表する伝統的工芸品「京焼・清水焼」の産地となっています。それ以外にも、京扇子、数珠、竹細工、木工、神具など京都の伝統産業を支える職人の方がたくさんおられます。

花街



京都の五花街の中で、祇園甲部、宮川町、祇園東の3つの花街が東山区にあります。それぞれ都をどり、京おどりを、祇園をどりが開催され、多くの観客を魅了しています。



保育園・保育所



東山区の子育てに大いに貢献している保育園と保育所。東山区内の子どもだけでなく、「当初、近くの保育園に入れなかったのが、東山区内の保育園に入園させましたが、区内の様々なイベントに子どもが参加するようになり、東山区の保育園も、東山区の雰囲気もどちらも好きになりました。」と区外から通う子どもと保護者からも好評です。

【東山区内の保育園・保育所】

昭和保育園、真覚寺保育園、善立寺保育園、小松谷保育園、光保育園、東福寺保育園、永興保育園、愛友保育園、三条保育所、三条乳児保育所

東山区民ふれあいひろば



子どもからお年寄りまで例年1万人を超える来場者で賑わいます。東山区民ふれあい事業実行委員会をはじめ区民の皆さんがボランティアで運営に携わっていただき、みんなの力で開催しています。

ふれあい事業実行委員会に参画する各種団体は、団体独自の活動だけでなく、学区の自治連合会等と連携を図りながら、地域活動の中心的な役割を担っています。

【東山区民ふれあい事業実行委員会】

東山区市政協力委員連絡協議会
東山保健協議会連合会
東山区体育振興会連合会
東山区地域女性連合会
東山区母子寡婦福祉会
東山区保育園協議会
東山少年補導委員会
東山区地区赤十字奉仕団
東山区役所

東山区社会福祉協議会
東山区民生児童委員会
東山区シニアクラブ連合会
東山区交通安全対策協議会
東山区住みよい京都をつくる婦人の会
東山消防団
東山保護司会
京都府共同募金会東山区共同募金会

地域交流



全国的にコミュニティが希薄化する中で、東山区では地域交流が活発です。「地域が狭く子どもの数が少ない分、子どもたちやその親同士の交流密度が濃いと思います。子どもを通じて親同士が親友となりました。」「小学校に通う子どもたちを地域のおじいちゃん、おばあちゃんが見守ってくださったり、色々な活動に参加・協力していただき、地域の方と子ども・保護者との交流がとれるところだと思います。」といったメッセージをいただきました。

神社仏閣

東山区にはたくさんの神社仏閣があり、崇拜・拝観の場としてだけでなく「四季折々の花々が見られ、身近に自然にふれることもでき、子どもたちが遊ぶ場所としても助かっています。」と住民の憩いの場となっています。また、「日本、そして京都の美しさを感じる場所ですし、子どもから大人まで身近に伝統文化に触れられて勉強できる場所だと思います。」と日本文化を体感する場となっています。

東山区の学区

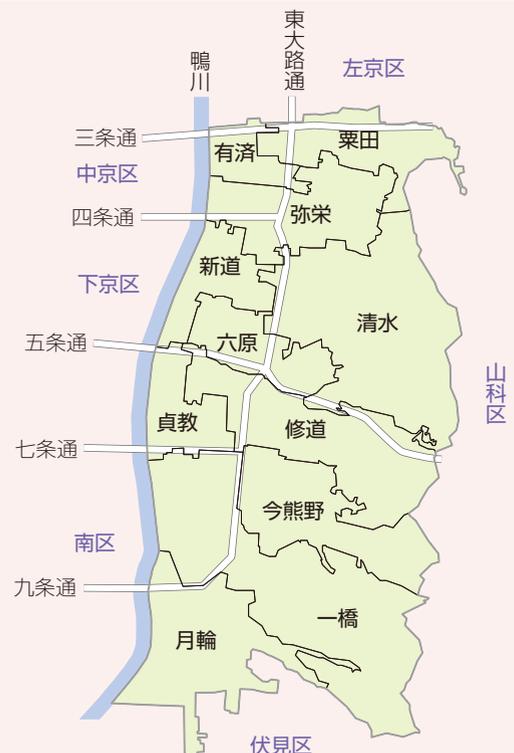
京都では明治元年（1868年）に66組の「町組」が結成されました。翌年の明治2年には町衆の英知と行動力を駆使した先進的な取組により、1町組1校を基本に市内で64校の番組小学校が創設されました。

東山区は当時下京区の一部であり、9組の町組が結成され、有済（下京第二十四）、粟田（下京第二十五）、弥栄（下京第三十三）、新道（下京第二十六）、六原（下京第二十八）、清水（下京第二十七）、貞教（下京第二十九）、修道（下京第三十）、一橋（下京第三十一）の番組ができ、政府の学制発布（明治5年）よりも前にそれぞれ小学校が開校されました。

その後、大正時代に一橋小学校から月輪小学校が、昭和初期に今熊野小学校が分離して東山区内で11学区となりました。

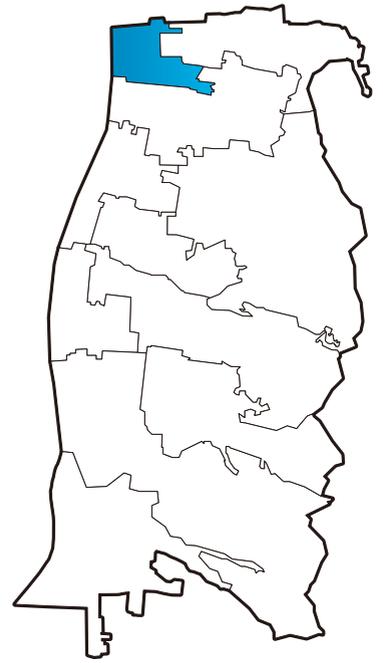
東山区の11学区は、市内の他の学区と同様に住民自治の単位として今日まで引き継がれ、現在も学区単位で自治活動が盛んに行われています。

次ページ以降では、東山区の11学区の概要や小学校の沿革、更には学区内の光や誇りを紹介します。



有

済学区



有済学区は、東山区の中で粟田学区とともに左京区と接して最も北にあり、東は主に粟田学区、南は弥栄学区、西は鴨川に接する地域です。

明治2年の町組改正で、下京24番組に編成されて以来、町の統廃合や改称を重ねた後、有済学区となりました。

「有済」は、中国の儒書『尚書（書経）』の「君陳」の、「必ず忍ぶ有りて、其れ乃ち済す有り」から取り入れられたもので、「苦しい時でも耐え忍び、一杯努力すれば、必ず報われ成功する」という意味です。

有済学区には、三条大橋東詰に京阪電気鉄道と市営地下鉄の交差する三条京阪駅があり、多くの人出入りがあります。また、桜や柳の木などとともに、今も昔の町並みが残る白川筋や、古美術商が建ち並ぶ知恩院の門前町など、京情緒豊かな場所も多くあり、さまざまな特色を持ったまちです。



有済小学校

学校沿革

- 明治 2年 下京第二十四番組小学校として下京第二十四北小学校開校
- 8年 大元小学校とも称する
- 12年 書経の「必有忍其乃有済」より有済小学校と改称
- 13年 新校舎落成
- 30年 京都市有済尋常小学校と改称
- 昭和12年 鉄筋コンクリート改築工事完了
- 16年 京都市有済国民学校と改称
- 22年 京都市立有済小学校と改称
- 27年 太鼓望楼を屋上移築
- 44年 創立100周年
- 平成11年 創立130周年
- 13年 ムクノキが区民誇りの木に選定
- 16年 創立135年をもって閉校し、白川小学校に統合
- 23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館（開晴小・中学校）開校予定



校歌

作詞 藤井 乙男
作曲 田村 虎蔵

一 学びの窓に

いならびて

心は清く

身も強く

かたきに耐えて

たじろがず

むつび学ばん

もろともに

二 たへて忍べば

済す有りと

校名おえり

わが友よ

くちぎるこの名

とうとびて

つとめはげまん

もろともに

なすありの径



白川筋の東大路から花見小路までの道で、平成10年に京都市がコミュニティ道路として整備した際に、公募で「なすありの径」と名付けられました。



なすあり地蔵



なすありの径の沿道の西端には、昭和29年に白川の川底から掘り出された「なすあり地蔵」が祀られています。

三条大橋と三条通



鴨川に架かる三条大橋は、東海道五十三次の終点であり、京阪電鉄と市営地下鉄が交差する三条駅があり、古くから多くの人で賑わってきました。日本最初の駅伝競走のスタート地点でもあり、橋の北東には駅伝発祥の碑があります。

なすありふれあい朝市



毎月第2水曜日に有済小学校で開催。右京区京北地域の方が来られて、新鮮な野菜などを即売する朝市で賑わいます。戦時中に有済小学校が京北に学童疎開していたことから今も交流が続いています。



有済小学校の太鼓望楼



明治期に造られた太鼓望楼。火事や時刻を住民に知らせるために使われました。昔は太鼓望楼が多くの小学校にありましたが、京都で唯一、有済小学校舎に残っていて、国登録有形文化財に指定されています。

高山彦九郎の像



江戸時代の思想家である高山彦九郎が、三条大橋東詰から京都御所に向かって拝礼する姿をかたどった銅像。待ち合わせの定番スポットになっています。

有済小学校のムクノキ



治承年間（1180年頃）に木曾義仲とともに入洛し、この辺りでなくなった山吹御前の供養のために植えられたといわれています。有済小学校では、改築の際にムクノキを保存するために校舎の一部をくぼめたり、ムクノキの名を冠した授業を行ったりしていました。



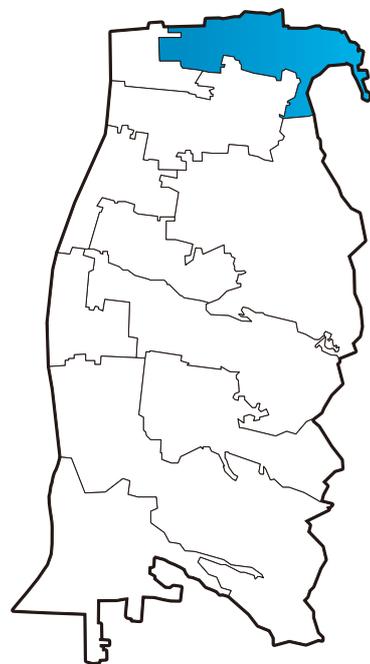
知恩院門前町通



古門前通（知恩院黒門に通じる通り）と新門前通（知恩院山門に通じる通り）は、古い町並みと古美術商が多いところです。

粟

田学区



粟田学区は、北は左京区、東は山科区に隣接し、東山区の北東部に位置します。粟田という名称は、平安時代以前から存在する古代の郷名で、のちに広く粟田学区を指した地名といわれています。東部には「京の七口」の一つに数えられていた粟田口があり、平安時代から石山寺を参拝するときに利用されるなど、古くから京の出入口でした。現在は、三条通と市営地下鉄が東西に走り、交通の要衝であったこの地の性格を継承しています。

学区内には、地下鉄の蹴上駅と東山駅があり、学生や観光客など多くの利用者がいます。東山駅の出入口にある古川町商店街は、知恩院の門前に位置し、店員がお客に気軽に声をかけるなど、人情味があふれています。また、大学と連携して空き店舗を活用し、気軽に健康についての相談を受けられる「すこやか健康サロン」を開くなど、地域住民と密着したまちづくりが行われています。



粟田小学校 (現 白川小学校)

学校沿革

- 明治 2年 下京第二十五番組小学校として開校
- 20年 下京第八尋常小学校と改称
- 25年 粟田尋常小学校と改称
- 昭和 16年 京都市粟田国民学校と改称
- 22年 京都市立粟田小学校と改称
- 44年 創立100周年
- 平成 元年 粟田自然観察園新設
- 11年 創立130周年
- 16年 創立135年をもって閉校
有濟小学校と統合し、白川小学校として開校
- 23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館
(開晴小・中学校)開校予定



校歌

作詞 上島 信三郎
作曲 杉本 秀治

一 東の山の山ふもと

うまし自然のふところに

ゆかりはしるき学舎の

粟田の名こそ尊けれ

二 ふるう小鍛冶のつちのごと

熱と力とまごころを

ただひとすじに打ちこめて

心も身をもきたえなん

三 流れてやまぬ白川の

清きをおのが身にしみて

たわまずつとめもろともに

よき日の本の民たらん

粟田神社



古くから東海道を行き来する人々が旅の安全を願ったり、道中の無事を感謝してお参りされたため「旅立ち守護の神」といわれました。粟田祭で護持されている18基の剣鉾は祇園祭の山鉾の原形をとどめています。

粟田焼



17世紀初頭から三条蹴上辺りで焼かれてきた焼物で、粟田口焼ともいいます。清水焼とともに常に京焼の中心として、また青蓮院門跡の御用窯として栄えました。昭和50年代には一時途絶えましたが、近年若手の陶芸家が復興に向けて取り組まれています。

白川



三条通から東大路通までの白川沿いは、緩やかに曲がった沿道を柳並木が立ち並び、細い石橋が何本か架かって、絶妙の風情を醸し出しています。地域の皆さんの清掃活動によりいつも美しい流れが保たれています。

粟田自治連合会



平成19年に設立。定期的に会合を行ったり、自治新聞を発行するなど地域自治活動の核として活躍しています。

大將軍神社



平安京ができた時、都安定のために「スサノオノミコト」の荒御霊を東西南北にお祀りした東のお社です。境内には東三条殿跡の碑や区民誇りの木に指定された樹齢800年のイチヨウの木があります。5月に行われる神幸祭では神輿が担がれます。

粟田大燈呂



10月に粟田神社大祭の夜渡り神事で行われる巨大な燈呂の巡行。地域の方や大学生のボランティアの尽力により、平成20年に180年ぶりに復活しました。東北地方のねぶた祭は粟田大燈呂が原型となったという説もあります。

白川夏まつり



毎年7月に白川小学校で開催し、子どもを中心に地域の老若男女が夏の風物詩を楽しみます。



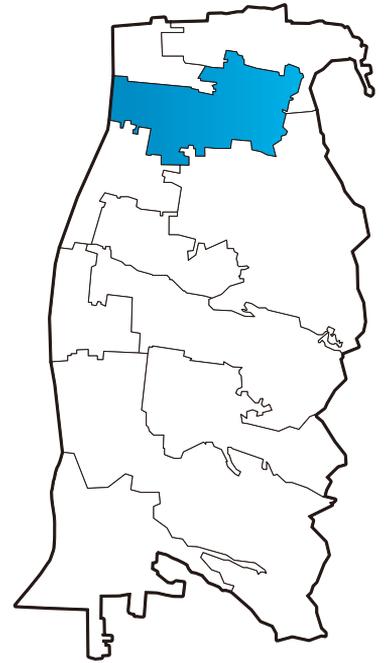
古川町商店街



歴史は古く明治以前から形づくられ、戦後は「東の錦」といわれたこともある商店街。食料品から生活用品まで多彩なお店があり、地域の生活を支えています。

弥

栄学区



弥栄学区は、北は有济学区と栗田学区に、南は新道学区と清水学区に、西は鴨川に接する地域です。

東部には知恩院や八坂神社、大谷祖廟といった寺社に加え、枝垂れ桜で有名な円山公園など、名所旧跡が数多くあります。西部は繁華街がにぎわいを見せています。

この学区の性格に大きな影響をもたらしたのは、古くからこの地区を守る神社として崇敬を集めていた八坂神社です。西部に広がるお茶屋街や繁華街は、その門前として、参拝者を接待するおもてなしの場として発展したといわれています。



彌栄小学校 (現 弥栄中学校)

学校沿革

- 明治 2年 下京第三十三番組小学校として開校
校舎は当時の町会所を転用
- 5年 八坂校と改称
- 10年 彌栄校と改称
- 大正 7年 学校創立50周年
- 昭和 16年 京都市彌栄国民学校と改称
- 23年 彌栄小学校廃校
校舎を転用し、弥栄中学校として開校
- 44年 学校創立100周年
- 平成 23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館
(開晴小・中学校)開校予定



校歌

一 ふみの花さく きやうとしに

始めてたてし ほまれある

このふみのやの まなびこは

心も身をも きたひつ、

学びのわざを いそしみて

先ふみ行かむ 人の道

二 あふぎたうとむ うぶすなの

神の社に ほどちかき

名さへやさかの まなびのや

かみのそのふの おしへぐさ

いよいよさかえて 花もさき

うるはしき実も むすびなむ

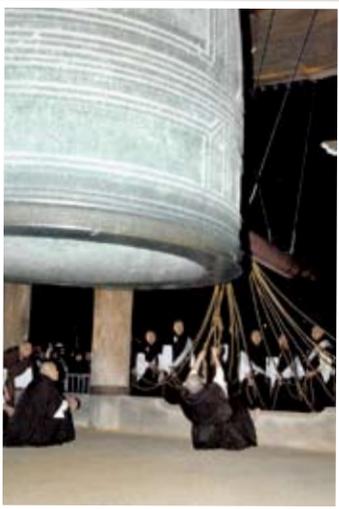
※大正七年、創立五十周年記念のために作詞

八坂神社



平安建都の約150年前の斉明天皇2年(656年)に創祀されたといわれています。初詣をはじめ年中多くの参拝者で賑わいます。

知恩院の除夜の鐘



知恩院の鐘は日本三樓鐘とよばれ、その大きさから、僧侶17人がかりで除夜の鐘が撞かれます。午後10時半過ぎ頃から撞き始められ、鐘の音が街中に響き渡ります。

花見小路通



お茶屋や料亭の京町家のたたずまいと石畳が続く町並みは、多くの人々を魅了しています。祇園町南側地区まちづくり協議会が中心となって、景観整備や私道整備、防災啓発と私設消火栓整備啓発などを行い、たゆまない努力により京都を代表する町並みを守っています。

円山公園



区民だけでなく多くの観光客が訪れ、安らぎと憩いの場となっています。園内には有名な枝垂れ桜だけでなく、祇園祭山鉾館、円山音楽堂、坂本龍馬・中岡慎太郎像、ラジオ塔などがあります。



祇園新橋界隈



美しい白川の流れ、枝垂れ桜、石畳、紅殻格子の町家の風情が京情緒を存分に醸し出しています。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、多くの観光客を魅了しています。

祇園甲部歌舞練場



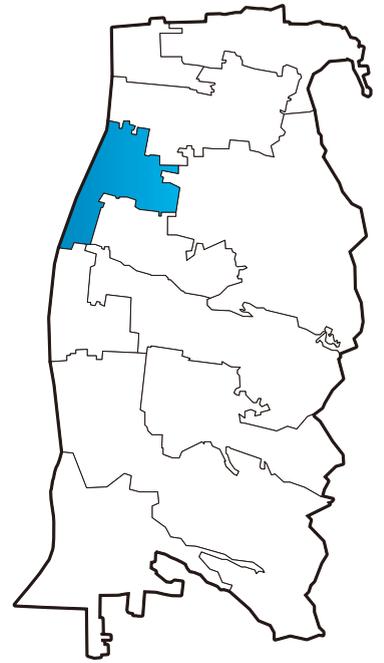
春の「都をどり」や秋の「温習会」など、あてやかな京舞が披露されます。本館・別館・玄関・正門・八坂倶楽部などは有形文化財として指定されています。

祇園祭



八坂神社の祭事である祇園祭は、神輿渡御(神幸祭・還幸祭)や山鉾巡行が有名ですが、7月1日の吉符入から31日の疫神社夏越祭まで1箇月かけて祭事が行われます。

新道学区



新道学区は、北は弥栄学区に、南は六原学区と貞教学区に、東は清水学区に接する地域です。面積の約半分を寺社が占めていて、住宅は宮川筋や大和大路などを中心とする西部に集中しています。京阪電車の地下化に伴い、川端通の一部が再開発されましたが、大部分は昔ながらの町並みを残しており、少し歩き回ると情緒ある袋小路を見つけることができます。

学区を特徴づけるものとして、建仁寺や恵比須神社といった社寺と並んで、京都でも有数の花街で、「京おどり」で有名な宮川町があります。提灯がぼんやりと灯る夜の宮川町を、舞妓さんがこつぽりを鳴らしながら歩く姿は艶やかで、京の風情を醸し出しており、多くの人を魅了します。



新道小学校

学校沿革

- 明治 2年 下京区第二十六番組小学校として開校
- 5年 下京第二十番組小学校と改称
- 20年 新道尋常小学校と改称
- 41年 校旗制定
- 昭和14年 校歌制定
- 16年 京都市新道国民学校と改称
- 22年 京都市立新道小学校と改称
- 44年 プール完成
- // 創立100周年
- 平成13年 クスノキが区民誇りの木に選定
- 21年 創立140周年
- 23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館(開晴小・中学校)開校予定



校歌

作詞 古沢 義則
作曲 近藤 義次

一 東山脈日の照りて

栄ゆる木々の色かへぬ

操を己が心にて

勉め学ばん諸共に

二 西に加茂川月浮けて

流るる水は休みなく

倦まぬおのが身にしてみて

勉め学ばん諸共に

三 あまねく人と世のために

至誠と自治と力行を

掲げてここに教え草

永久に茂らん新道校

建仁寺



日本禅宗の始祖であり、日本に喫茶の風習を広めた栄西禅師により建立された臨済宗建仁寺派の大本山。風神雷神図屏風や双龍図などの文化財も迫力があります。広い境内は地域住民の安らぎの場にもなっています。



新道小学校のクスノキ



新道小学校の校庭の南西にあり、昭和期に植えられたものと推定されています。春には、毎年、ウグイスがこの木の枝から美しい声を聞かせてくれます。

四頭茶会



建仁寺で毎年4月20日に行われ、茶の湯の源流である禅宗寺院独特の作法の茶会です。方丈室の中で行われ、4人の正客に準じて相伴客がお茶をいただきます。



新道もちつき大会



例年11月に開催される学区のもちつき大会。子どもからお年寄りまでみんなでおもちをついて一緒にいただきます。

宮川町



京都五花街の一つ。宮川筋の石畳と町家が連なる町並みは、京情緒をふんだんに醸し出しています。また、舞妓さんが行き交う姿も昼夜を問わずよく見られます。宮川町歌舞練場では毎年4月に「京おどり」が行われます。

新道盆踊り大会



毎年8月に新道小学校で行われる盆踊り。盆踊りを通じて子どもからお年寄りまでふれあいの輪を拡げています。

恵美須神社の神幸祭



例年5月第3日曜日に開催され、糸びす様の「お渡り」といわれています。神輿が学区内を中心に氏子三十六箇町を巡行し、地域をあげたお祭りとなっています。



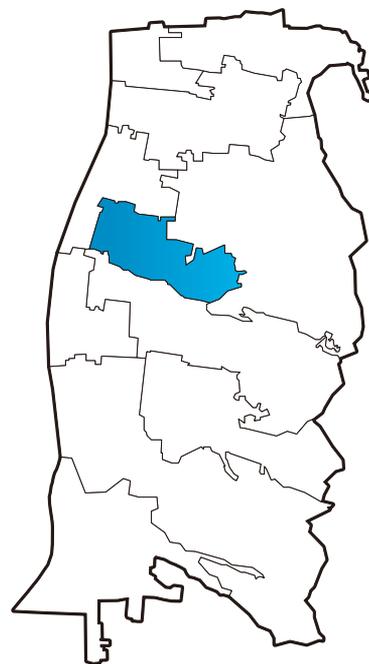
十日ゑびす



毎年1月8日から5日間にわたって行われ、境内にはたくさんのお札や縁起物が並び、吉兆のお笹の授与が行われます。商売繁盛・家運隆昌を願う人々で大いに賑わいます。

六

原学区



六原学区は、北と西は新道学区、南は修道学区、東は清水学区に接する、東西に長い地域です。学区の名前の由来には諸説ありますが、この地域にある六波羅蜜寺にちなんでいるともいわれています。

この辺りは、平安時代に栄華を誇った平家一門の拠点が置かれ、鎌倉時代には六波羅探題が置かれるなど、長く政治上の要地として重要視されてきました。応仁の乱などで一時荒廃しますが、近世に市街化が進む中で現在の六原学区の原型が形成されてきました。

大谷本廟、六波羅蜜寺、六道さんで親しまれる六道珍皇寺など多くの寺に囲まれ、歴史の宝庫の中に静かなまちのたたずまいを醸し出しています。また、京焼・清水焼をはじめ、竹工芸、木工、神具などの伝統産業が盛んなまちでもあります。



六原小学校

学校沿革

- 明治 2年 下京第二十八番組小学校として開校
- 5年 下京第二十一小学校と改称
- 9年 六原小学校と改称
- 20年 下京第二十一尋常小学校と改称
- 25年 六原尋常高等小学校と改称
- 41年 六原尋常小学校と改称
- 昭和 5年 北校舎新築
- 7年 講堂新築
- 12年 本館(東館)新築
- 16年 京都市六原国民学校と改称
- 17年 校章制定
- 22年 京都市立六原小学校と改称
- 44年 創立100周年
- 平成21年 創立140周年
- 23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館(開晴小・中学校)開校予定



校歌

作詞 六原小学校
作曲 平井 善次

一 あおぐ山なみ 東山

みどりの風が朝をよぶ
鴨の流れのせせらぎも
清くゆたかな

六原校 六原校

二 歴史を語る かねの音

陶の工 の名もひびき
心をこめた日々の業

高きほこりの

六原校 六原校

三 明るい光 身にうけて

深きよるこび胸にわく
のびよ大きくたくましく
ともに栄えん

六原校 六原校

やすらぎふれあい館



平成17年3月開館。東山区社会福祉協議会が入居し、東山区の地域福祉活動の拠点となっています。また、六原自治会館と六原消防分団詰所が併設されており、六原学区の自治活動の拠点でもあります。

五条坂陶器まつり



国内最大規模の陶器まつりであり、約500店が五条通の一带に出店します。京の代表的な夏の風物詩として、多くの来訪者で賑わいます。沿道の若宮八幡宮は陶器の神様でもあり、神社前には「清水焼発祥の地・五条坂」の碑が建っています。

六原フェスタ



例年10月に開催される六原学区のお祭り。作品展、各町内会主体の模擬店やバザー、小学校6年生によるフリーマーケットなど、学区民の交流とふれあいの場となっています。近年は大学生も参加して交流の輪が広がっています。

六原子ども夏まつり



地域の方々に、見守ってくださってありがとうございますの気持ちを込めて作った灯ろうを入口に並べて、地域の方による夜店や子どもたちによる夕食作りで夏の夜をみんなで楽しみます。宿泊児童は地域の銭湯へみんなで行って、小学校の講堂で一泊するのが恒例となっています。

六波羅蜜寺



応和3年（963年）に空也上人により開創された西国第17番の札所。平安後期には、広大な領域内に権盛を誇る平家一門の邸館が栄えました。



六原学区成人式



学区で成人式を開催し、新成人をお祝いする行事で、40年以上続いています。また、「2分の1成人式」として、10歳になる小学生も一緒にお祝いします。



六原小学校の材料銀行



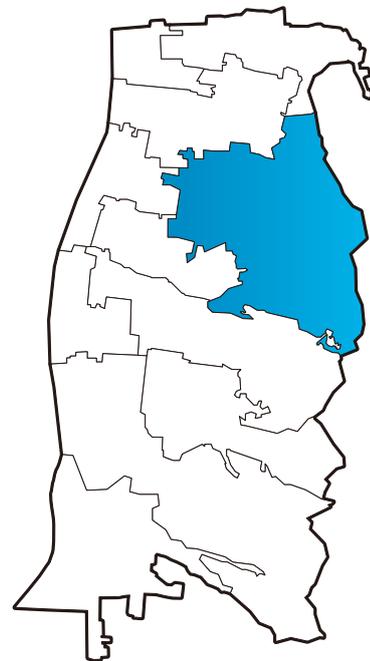
地域から竹、板切れ、布、ひもなど様々な材料が持ち込まれ、学校に保存されています。子どもたちはこの材料を使って作品を作ったり、いろんな活動で使用したりしています。また、毎年2月に行われる「造形展」でも材料を活かした作品を展示しています。

清

水学区

清水学区は、北は弥栄学区と粟田学区、南は修道学区、西は新道学区と六原学区、東は山科区に隣接しています。また東部は清水山を中心とした山地で占められています。

この地域には清水寺をはじめとして多くの名所があり、京都のみならず日本の代表的な観光地となっています。学区の名前にもなっている清水寺は今も昔も多くの人でにぎわい、また、豊臣秀吉をしのいで北政所ねねが開創した高台寺、八坂の塔の名で親しまれている法観寺などの寺院もこの地域にあります。これらの寺院に加えて、二年坂や三年坂（産寧坂）、ねねの道や石塀小路など、石畳の風情ある町並みも多く見られます。



清水小学校

学校沿革

- 明治 2年 下京第二十七番組小学校として開校
- 5年 下京第二十二区小学校と改称
- 20年 下京第二十二区尋常小学校と改称
- 25年 安井尋常小学校と改称
- 昭和 8年 現在の校舎を新築
- 〃 京都市清水尋常小学校と改称
- 9年 校歌制定
- 16年 京都市清水国民学校と改称
- 22年 京都市立清水小学校と改称
- 36年 六原学区の三ヶ町が通学区となる
- 42年 新校歌制定
- 44年 創立100周年
- 平成21年 創立140周年
- 23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館（開晴小・中学校）開校予定



校歌

作詞 合川 豊
作曲 福島 正

一 この坂道は 知っている

遠い都の あしあとを

あしたも歩く わたしたち

歴史にかおる 清水校

二 空につらなる 東山

ゆくてはげます 高い塔

風も希望を のせてくる

緑の中の 清水校

三 土に生まれる 窯元の

清い心の 色に染む

みんな明るい 光の子

文化にかがやく 清水校

清水寺



世界遺産として世界に誇る日本の文化財です。春の桜と新緑、秋の紅葉と四季折々の美しさを背景にした懸崖造りの本堂は、断崖の上にせり出し、舞台から望む市街地の眺めも最高です。

三年坂(産寧坂)



石畳と急な坂、そして町家が重なり絶妙の風情を醸し出しています。安産を願って参るために通る坂であったため、産寧坂ともいわれています。

清水学区成人式



清水自治会連合会の主催により清水学区の成人式が八坂神社で行われます。地域で大人の仲間入りをお祝いします。

清水金管バンド



高台寺



豊臣秀吉の妻、北政所ねねが開創したお寺。時期に応じたライトアップや四季折々の風景に癒されます。周辺には石堀小路やねねの道、二年坂があり、散策が楽しめます。



清水小学校の陶器製校章



清水焼の産地ならではの陶器でできた校章がPTAから新入生に贈られます。藍色の濃淡が美しい手作りの校章で、二つとして同じものはありません。



法観寺(八坂の塔)



聖徳太子が四天王寺の建立用材を求めにやってきた際、夢で如意輪観音のお告げがあり建立したといわれています。消失と復興を繰り返し、現在の塔は飛鳥時代の礎石の上に、室町時代に足利義教が再建したものです。

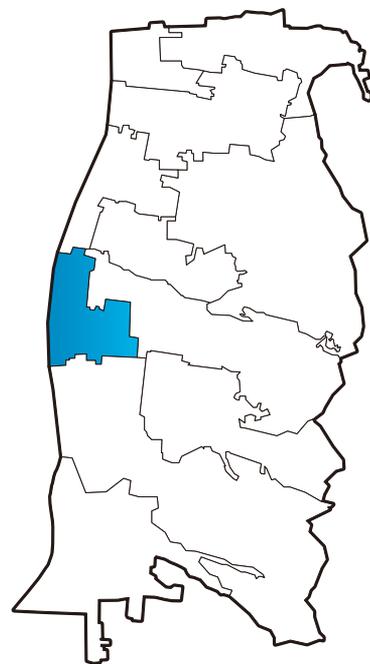
清水ふれあい夏祭り



清水自治会連合会を中心に学区民みんなで協力して企画・運営しています。清水寺の森清範貫主の書で染められたゆかたを着て楽しむ、地域を挙げたお祭りです。

貞

教学区



貞教学区は、北は新道学区、南は一橋学区、東は修道学区に接し、西は鴨川を境にする学区です。京焼・清水焼や京扇子などを営む方が多く、そうした職人の方々によって、「技」を今に伝え、京都の伝統産業を支えておられます。

「貞教」の名は、明治11年に小学校が現在の場所に移転する際、それまでの「正面校」にかわって命名されたものです。「四書五経」の「礼記」にある「志をあきらかにし、教えをさだめる」を意味する『章志貞教』からとられ、『貞教』は正しく教える、という意味を持つといわれています。貞教小学校は少子化の進行により、平成14年には修道小学校と統合して閉校しましたが、今も住民同士のきずなは強く、元学区を単位とした地域でのお祭りや福祉の取組が盛んに行われています。



貞教小学校

学校沿革

- 明治 2年 耳塚の北側に下京第二十九番組小学校として開校
- 5年 下京第二十七区小学校と改称、正面校とも称する
- 11年 現在地に移転。貞教校と命名
- 20年 下京二十七尋常小学校と改称
- 25年 貞教尋常小学校と改称
- 昭和16年 京都市貞教国民学校と改称
- 22年 京都市立貞教小学校と改称
- 24年 校歌の制定
- 28年 貞教幼稚園併設
- 44年 創立100周年
- 平成14年 創立133年をもって閉校し、東山小学校に統合
- 20年 洛東中学校校舎として使用
- 23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館（開晴小・中学校）開校予定



校歌

作詞 今中 楓溪
作曲 服部 良一

一 先生みんな よい先生

友だちみんな なかよしよ

たのしいホーム よいホーム

愛と光のよい学校

貞教 貞教 貞教 わが母校

二 ま近にのぞむ 東山

にっこり笑う なつかしき

大空晴れて 広い庭

きょうも元気で運動を

貞教 貞教 貞教 わが母校

三 文化の花の 咲きにおい

平和の鐘のなりひびく

住みよい国を祈りつつ

きょうも元気で勉強を

貞教 貞教 貞教 わが母校

貞教小学校に残る文化財



貞教小学校には、太政官高札や秀吉を象徴する千成瓢箪で飾られた古瓦など貴重な文化財が保存されていました。閉校してからは学校歴史博物館で保管されていますが、現在も校舎の郷土資料室に戦前の教科書などが保存されています。

豊国神社



豊臣秀吉を祀る神社で、参道正面の国宝唐門は伏見城の遺構とされる四脚門です。境内のイチヨウやクスノキは区民誇りの木に指定されています。

大和大路通のサルスベリ



大和大路通沿道に植えられているサルスベリの並木。町並みを花で彩ろうとの趣旨で、既存の植樹帯の再整備の一環として、昭和60年代に植えられました。夏には鮮やかな花が咲き誇り、沿道を行き交う人々を魅了します。

方広寺



豊臣秀吉の発願により、東大寺の大仏殿を模して創建されたお寺。「国家安康・君臣豊楽」の銘が刻まれ、大坂の陣のきっかけとなった梵鐘は、今も境内に残り、国の重要文化財に指定されています。

大仏殿とわらべ唄



方広寺にあった大仏は天正14年(1586年)に秀吉が建立し、その後、地震や雷で焼亡と建立を繰り返し、昭和48年の火災を最後に焼失したままとなっています。「京の京の大仏つあんは天火で焼けてな」とわらべ唄でも有名です。

洛東遺芳館



京の豪商柏原家の旧邸。江戸時代からの伝承品で婚礼調度・絵画・浮世絵・工芸品・古書古文書等を、春秋の年2回テーマを決めて公開されています。

貞教夏祭り

貞教福祉まつり



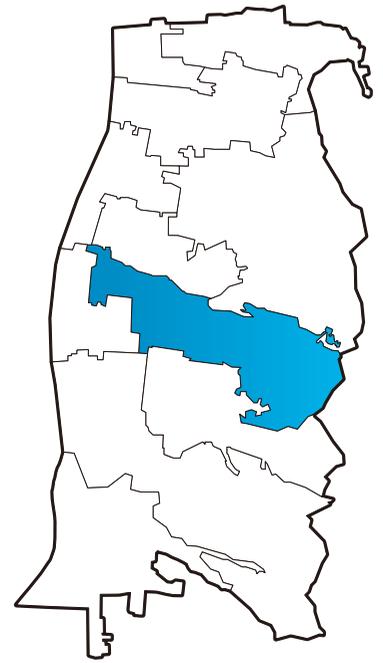
毎年11月に開催され、区内の福祉施設の作品の展示やステージでの発表があり、たくさんの地域の方で賑わいます。貞教学区では福祉活動が積極的に行われ、地域で一人暮らしのお年寄りを支えています。



貞教自治連合会を中心に、模擬店や夜店の出店、ステージの運営など学区民みんなで協力して企画・運営しています。

修

道学区



修道学区は、東山区の中央辺りに位置する、東西に細長い地域です。「修道」の名称は、儒教の四書「中庸」の「修道以仁」(道を修むるに仁を以てす)にちなむとされています。

この地域は、京の東の出入口として人の往来が多くあった渋谷越があり、古くから交通の要衝でした。このため、しばしば戦乱の中心となり、興廃を繰り返してきましたが、方広寺大仏殿の建立や妙法院の移転などによってにぎわいを見せるようになりました。今日も残る鐘鋳町・棟梁町・瓦役町などの町名は、これらの社寺運営に携わった人々によって形成された町といわれています。

学区内には、東山区内で唯一の4年制大学である京都女子大学があり、たくさんの学生が通学しています。



修道小学校 (現 東山小学校)

学校沿革

- 明治 2年 下京第三十番組小学校として下新シ町に開校
- 5年 下京第二十八区小学校と改称
馬街校とも称する(~8年)
- 20年 下京第二十八尋常小学校となる
- 25年 京都市修道尋常小学校と改称
- 35年 児童の増加により常盤町に移転
- 昭和 16年 修道国民学校と改称
- 22年 京都市立修道小学校と改称
- 44年 創立100周年
- 平成 14年 創立133年をもって閉校
貞教小学校と統合し、東山小学校として開校
- 23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館
(開晴小・中学校)開校予定



校歌

作詞 上島 信三郎
作曲 中原 都男

千歳の都

東山

阿弥陀ヶ峯を

仰ぎては

高きいさおを

しのびつつ

鐘のひびきも

清水の

澄みて流るる

心もて

たゆまず学ぶ

うれしさよ

馬町の空襲



写真提供: 京都新聞社

昭和20年1月16日に、それまで空襲のなかった京都に突然B29が飛来し馬町東入付近に爆弾が落とされました。41名もの尊い命が失われ、被災した家屋は300戸を超えました。負の遺産として、後世に語り継ぎたい出来事です。



妙法院



天台三門跡の一つであり、秀吉ゆかりの豪壮な庫裏は国宝です。ポルトガル国印度副王信書をはじめ、多数の文化財を所蔵しています。

積翠園



東山武田病院の敷地内にあり、平重盛の邸跡ともいわれる庭園で平安時代の様式を残しています。東西の細長い池中には、大小2個の島と5個の夜泊石があります。

修道夏祭り



地域の方による模擬店や夜店に加えて、ステージでのイベントや子どもみこしが催されます。グラウンドにたくさんのテーブルが並べられる風景は見事です。



陶芸家の居宅が並ぶ町並み



鐘鑄町には河井寛次郎記念館をはじめ、著名な陶芸家の居宅が多くあります。登り窯も河井寛次郎記念館に1基残っています。

清閑寺焼



聖武天皇の時代に清閑寺の寺領の窯で土器を焼いたのが始まりといわれています。清閑寺焼は粟田焼と共に京焼の流れを作りました。

京都女子大学



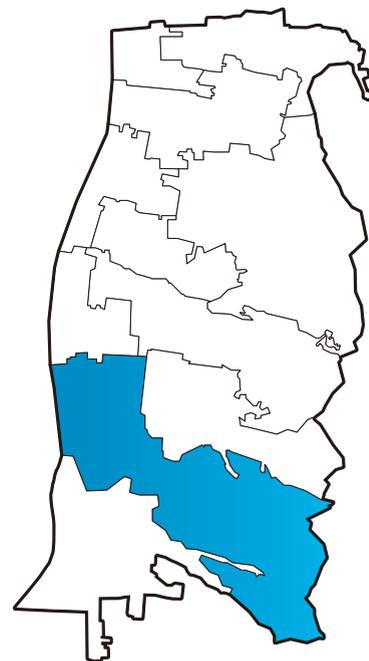
東山区内で唯一の4年制大学です。東大路通から京都女子大学に向かう坂道は女坂といわれ、朝夕には女子学生であふれます。近年、活発に大学と地域の連携が行われています。

新日吉神宮



本殿前に神の使いの猿像一対を持つ、日吉山王の神を勧請した神社。本殿裏にある雄大な姿のスタジイは区民誇りの木に選ばれています。

橋学区



一橋学区は、泉涌寺道を中心に、北は七条通から南は伏見区まで延びる凹凸に富んだ地域です。このような形になったのは、元来の学区域が一橋・月輪・今熊野の3学区に分かれたため、「一橋」の名は本町街道に架けられていた「一の橋」にちなんでいます。

この地域は、平安時代後期の後白河法皇の院政期には、新熊野神社や法住寺、蓮華王院（三十三間堂）など、時代を象徴する建物が次々と建てられ、当時の政治・文化の中心地でした。現在の町名にもその名残はあり、今熊野池田町の辺りは、栄華を誇った後白河法皇が造らせた池だったといわれています。木曾義仲による法住寺の襲撃を境に一時衰退しますが、鎌倉時代には「御寺」として有名な泉涌寺が建立され、その発展とともに門前町が形成されていきました。また、江戸時代には伏見城下町の建設に伴い、本町通に沿った地域が早くから市街地化し現在に至ります。



一橋小学校

学校沿革

- 明治 2年 下京第三十一番組小学校として開校
- 6年 一橋小学校と改称
- 25年 下京第三十一尋常小学校と改称
- 41年 京都市立一橋尋常小学校と改称
- 大正 11年 三橋尋常小学校(現月輪小学校)の開校により、児童413人が移動
- 昭和 6年 一橋第三小学校(現今熊野小学校)の開校により、児童585人が移動
- 16年 京都市一橋国民学校と改称
- 22年 京都市立一橋小学校と改称
- 44年 創立100周年
- 平成 13年 グリーンベルト完成
- 21年 創立140周年



校歌

作詞 下程 勇吉
作曲 森 卓

一陽はさんさんと照りはえて

紫匂う山の辺に

永遠の真清水湧くところ

明るく強く共々に

一橋の子らは進みゆく

一橋の子らは進みゆく

二 三 十六の峰かすみ

星かげゆらぐ加茂野辺に

真白き花の咲くところ

やさしく清く共々に

一橋の子らは進みゆく

一橋の子らは進みゆく

三十三間堂



木造建築世界最長120mの本堂を持ち、堂内には国宝の千手観音坐像と1000体の千手観音立像が並びます。1月中旬（15日に近い日曜日）には通し矢が行われることでも有名です。

夢の浮橋跡



昔、泉涌寺の参詣道として一ノ橋川に架かっていた橋跡。橋名は源氏物語宇治十帖「夢の浮橋」のたとえに由来しています。

瀧尾神社



欄間彫刻の本殿は北山貴船奥院御社旧殿を移築したものです。拜殿の天井には一木で彫られた龍が据え付けられています。

南大門と太閤塀



三十三間堂の南側の塩小路通に面した南大門と築地塀（太閤塀）は、元は豊臣秀吉が母を祭るために建立した方広寺大仏殿の遺構で、共に重要文化財に指定されています。



泉涌寺



御寺と呼ばれる皇室の香華院（菩提所）です。周辺には塔頭のお寺も多数あり、静寂で落ち着いた境内は、地域の憩いの場にもなっています。



一橋探検ラリー



一橋小学校では、子どもたちが地域の皆さんに御協力いただき、自然や文化財、史跡、伝統産業などについて学び、体験する授業を行っています。

一の橋



昔は東山から鴨川にいくつもの川が流れ込んでおり、伏見街道（本町通）に一の橋から四の橋まで架けられていました。一橋小学校の校名の由来となった一の橋の欄干は、校庭にある一橋の森に移されて子どもたちを見守っています。

一橋の森

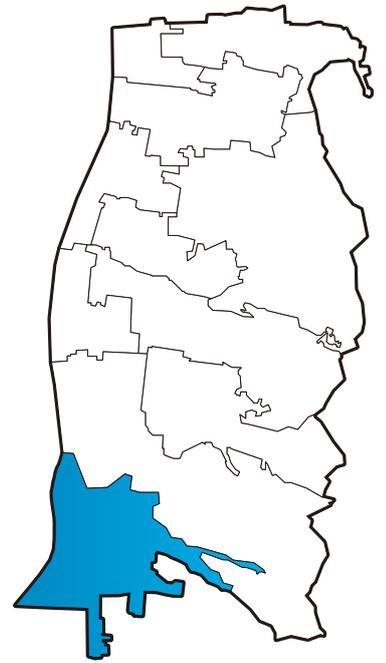


一橋小学校のグラウンド角にあり、疏水から引き込まれた清流が流れています。小学生が自然や生き物とふれあう大切な場となっていて、5月末頃から飛び始めるホタルを地域のみんなで鑑賞します。



月

輪学区



月輪学区は、東山区の一番南に位置し、人口が最も多い学区です。元々は今熊野学区とともに一橋学区の一部でしたが、一橋小学校の児童数の増加により月輪小学校（当初は三橋尋常小学校）が創立されたことにより形成されました。月輪という名称の由来は、泉涌寺近くにある歴代天皇陵、月輪十二陵にちなむともいわれています。

この地域は、延長2年（924年）、藤原忠平によって建立された法性寺を中心として発展しました。法性寺の寺域は月輪学区をすっぽりと包むほど大きく、学区を南北に貫通する本町通は当時法性寺大路と呼ばれ、京と伏見、宇治とを結ぶ主要幹線として現在よりも広い道幅だったといわれています。この街道沿いという立地条件に加えて、嘉禎元年（1235年）には九条道家によって建立された東福寺がこの地域の発展に大きく影響を与え、現在に至ります。



月輪小学校

学校沿革

- 大正11年 一橋尋常小学校から分離し、京都市三橋尋常小学校として開校
- 昭和 4年 京都市一橋第二尋常小学校と改称
- 11年 新館鉄筋校舎完成
- 16年 京都市月輪国民学校と改称
- 22年 京都市立月輪小学校と改称
- 32年 新講堂完成
- 42年 新校歌制定
- 56年 南校舎完成
- 平成12年 育成学級開設
- 13年 創立80周年
- 21年 校庭に三の橋の欄干が設置



校歌

作詞 糸岡 正一
作曲 福本 正

一 桜吹雪を あびながら

きょうも 元気に

たくましい体をきたえ

次の世代をになつて立とう

月輪 月輪

われらの学び舎

二 紅葉の照りに 読む文の

きょうも さやかに

奥深い知識をみがき

明日の文化を啓いてゆこう

月輪 月輪

われらの 学び舎

三 なかよく みんな手を結び

きょうも ゆたかに

徳をつけ 礼儀を正し

人のご恩に応えてゆこう

月輪 月輪

われらの学び舎

東福寺



臨済宗東福寺派の大本山。多数の文化財をはじめ、庭園なども見所が多く、通天橋からの紅葉は多くの入会者を魅了します。



東福寺の涅槃図はとても大きく、また日本で唯一猫が描かれています。3月に行われる涅槃会では、涅槃図が開帳されます。

東福寺大涅槃図と猫



茶陀院の丸窓



東福寺の塔頭・茶陀院は、雪舟等楊禅師が作庭された禅院枯山水の庭園があることから「雪舟寺」といわれています。茶室である図南亭内の丸窓から望む南庭は絵になります。

伏見人形



稲荷山の土で造った日本最古の土人形で、全国の土人形は伏見人形の影響を受けています。明治期には20数軒の窯元がありましたが、江戸期から続いているのは、今では丹嘉1軒となっています。

法性寺



藤原忠平が建立したお寺。かつては藤原摂関家の氏寺として栄え、北は九条大路、南は稲荷社北境、東は東山山麓、西は鴨川に至りました。

筆塚と筆供養



東福寺の山門の南にある正覚庵は筆の寺と呼ばれています。毎年11月23日に全国から寄せられた廃筆が、護摩木と共に火に投げられる筆供養が行われます。

毎年、保護者や地域住民の協力により盛大に行われているバザー。子ども達もバザーキッズとしてお手伝いします。



月輪学区夏祭り

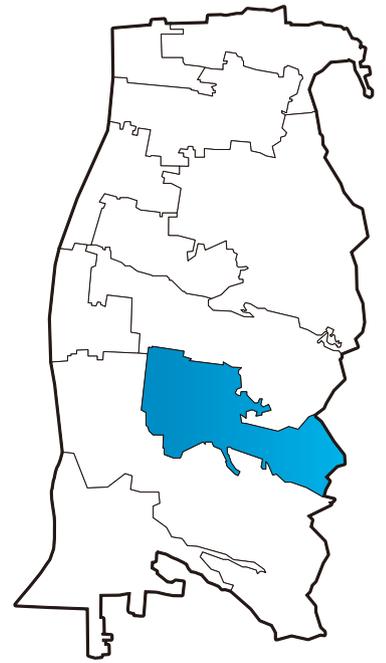


夏休み最後の土曜日に学区民が協力して模擬店を出し、子ども達に夏休みの思い出を作っています。ステージでは小学生から高校生までのプラスバンドの演奏も行われます。



今

熊野学区



今熊野学区は、昭和6年に児童数増加により今熊野小学校が開校した時に始まります。名称は、永暦元年（1160年）、後白河上皇が法住寺内に紀州国（和歌山県）の熊野から勧請・創建した新熊野神社に由来します。

学区の中央には山越えて山科・醍醐方面へと通じる醍醐道（滑石越）が走り、古くから京都の東南の出入口にあたる地域として知られていました。

近代に入り、この地域の発展に大きく影響を与えたのは、大正2年、通称蛇が谷の一角に登り窯が築かれたことによりこの地域一帯に広がった陶業です。現在でも地場産業として多くの窯元が点在しており、毎年地域の行事として「日吉窯元まつり」やPTA主催の「今熊野バザー」（陶器バザー）が催されるなど、今熊野学区と陶業は切り離せない関係にあります。また、大正15年から昭和55年にかけて今熊野日吉町のあたりには、京都市立芸術大学（現在は西京区大枝）があり、学生の姿も見かけられました。



今熊野小学校

学校沿革

- 昭和 6年 一橋第二尋常小学校(現月輪小学校)から分離し京都市一橋第三小学校として開校
- 7年 校章・校旗制定
- 16年 京都市今熊野国民学校と改称
- 22年 京都市立今熊野小学校と改称
- 35年 校歌制定
- 36年 プール竣工
- 54年 体育館竣工
- 平成 12年 ガス陶芸窯を「熊友窯」と命名
- 13年 創立70周年



校歌

作詞 坂東 一雄
作曲 藤本 晋一郎

一朝ぐもはゆる 東山

阿弥陀が峰の松の色

ひかりあふるる まなびやの

意気高らかに 今熊野

二日毎にはげみ 伸びて行く

学びの力 たのもしく

わが師わが友 むつみあう

集い楽しき 今熊野

三名だたる土地に おいたちて

京の文化を 創らんと

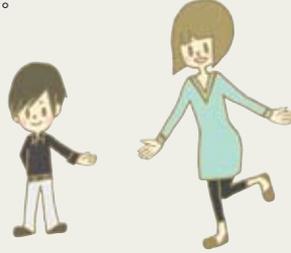
のぞみを胸に いざ立ちて

明るく行かん 今熊野

今熊野小学校の校舎



昭和6年に建てられ、木造の校舎としては市内で唯一残っています。建物の構造も珍しく、2階の55畳の大広間には柱が1本もありません。



滑石越



今熊野の東大路通から山科へ抜ける道。峠を越えて山科へ下る道がよく滑ったため「滑石」と名付けられたそうです。醍醐寺に通じる道でもあったため、醍醐道ともいわれます。

陶器塚



智積院の東側、地蔵山墓地の入口近くで、桜の木の下に建つ陶器塚。京都日吉製陶協同組合により、今熊野日吉町界隈での焼物の歴史を紹介するとともに、先人の功績を称え、この地の発展を願って建立されました。

今熊野剣ノ宮町のシダレザクラ



円通寺橋付近にあり、先代の祇園枝垂を親とする兄弟木の一つといわれています。春になると見事な花が咲き、地元の人々を魅了します。



日吉窯元まつり



例年、桜の開花時期に開催され、日吉地域の窯元を中心に陶器市や模擬店、窯元を巡るスタンプラリーや陶磁器クイズ・焼物検定などが行われます。

新熊野神社



後白河法皇の命により平清盛が社殿を造営したのが始まりといわれ、京の能楽発祥の地でもあります。また、クスノキは「大樟さん」と呼ばれ、樹齢900年といわれる御神木で京都市指定天然記念物に指定されています。

智積院



真言宗智山派総本山。池泉廻遊式庭園は中国の廬山をかたどって創られています。収蔵庫には長谷川等伯一派による桜・楓図(国宝)などが展示され、講堂には新たに田淵俊夫画伯による襖絵が奉納されました。

今熊野小学校バザー



50年以上も前から続いていて、PTAが中心となって開催しています。地域の陶芸家の方も陶器を無償で提供していただいたり、6年生に陶芸を指導していただいたりしています。



白川小学校



校歌

作詞 人見 明夫
作曲 金本 正武

- 一 山のみどり朝日にはえて
小鳥の歌も うるわしく
光かがやく学び舎に
こころ明るく たくましく
手をたぎさえて学び合おう
白川 白川小学校
- 二 川の流れる水すみて
風もさやかに ふきわたる
望みふくらむ学び舎に
こころやさしく おおらかに
未来をみつめて学び合おう
白川 白川小学校
- 三 古い都の東の空に
たなびく雲を あおぎみる
熱意あふれる学び舎に
こころと体を きたえつつ
理想をもとめて学び合おう
白川 白川小学校

学校沿革

- 平成16年 有濟・栗田小学校が統合し、白川小学校として開校
23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館(開晴小・中学校)開校予定



東山小学校



校歌

作詞 磨野 久一
作曲 藤島 昌壽

- 一 東の峯に 鐘ひびき
西 清流に かめめ舞う
京の自然に はぐくまれ
清くやさしくあたたかく
東山の子 未来をめざし学び合おう
東山小学校
- 二 長い歴史に いろどられ
文化咲かせた 京の町
伸びゆく力 受け継いで
強く 正しく たくましく
東山の子 希望を胸に励み合おう
東山小学校

学校沿革

- 平成14年 貞教・修道小学校が統合し、東山小学校として開校
23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館(開晴小・中学校)開校予定



弥栄中学校



校歌

作詞 平井 乙磨
作曲 中原 都男

- 一 古き都の夢を呼び
緑にあくる東山
麓に日々を新らしく
伸びゆく弥栄
われら弥栄中学生
- 二 加茂の流れの霧はれて
清しく励む学と芸
正しく剛く健やかに
自由の弥栄
われら弥栄中学生
- 三 祇園の森よ純情の
結びて起る木霊かな
理想かがやく校風の
真実の弥栄
われら弥栄中学生

学校沿革

- 昭和23年 彌榮小学校廃校の校舎を転用し、弥栄中学校として開校
平成20年 創立60周年
23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館(開晴小・中学校)開校予定

洛東中学校



校歌

作詞 平井 乙磨
作曲 高橋 半

- 一 緑よそよげ 東の
山ふところの 夢のあと
日々あたらしき 希望の灯
胸にともして 友よいざ
いざ励め 洛東
洛東中学校
- 二 清水山に 終日を
学びのこだま 反しつ
正しくつよく 朗らかに
文化と芸を 友よいざ
いざ励め 洛東
洛東中学校
- 三 賀茂の流れよ 真実よ
響くを永遠の 心とし
大地うるわしき 洛東に
理想の塔を 友よいざ
いざ励め 洛東
洛東中学校

学校沿革

- 昭和22年 弥栄・新道・六原・清水・貞教・修道・今熊野の7小学校区を校区として開校
23年 弥栄小学校区が新設弥栄中学校に移籍
24年 今熊野小学校区が月輪中学校に移籍
43年 校歌制定
平成20年 開晴小中学校の工事のため、元貞教小学校に移転
23年 東山区北部7小・中学校が統合して東山開晴館(開晴小・中学校)開校予定



月輪中学校



校歌

作詞 吉井 勇
作曲 信時 潔

- 一 月輪山の春霞
夢美しき若き日も
ただひたすらに 智を磨き
すぐれし人と 生い立たん
われらの母校なつかしや
- 二 泉涌寺道ひとすじに
たどるは高き徳の道
心清らにあたらしき
日本をいざや 築かなん
われらの母校とうとしや
- 三 われらが立つは京の土
大地を強く踏みしめて
いまこそ正義の ためにゆく
ゆく手にならず 幸あらん
われらが母校いざぎよや

学校沿革

- 昭和22年 月輪小学校に併置、月輪中学校として開校
24年 校章制定
25年 今熊野小学校区が通学区に加わる
30年 校旗・校歌制定
平成 9年 創立50周年
14年 新校舎完成

東山開晴館(開晴小学校・中学校)



5小学校(白川・新道・六原・清水・東山)と2中学校(弥栄・洛東)が統合して、平成23年4月に開校予定。

京都市中心部では初の施設一体型の小中一貫校となり、小学校1年生から中学校3年生までの9学年が共に学ぶこととなります。現在元洛東中学校敷地に建設中の校舎は景観に配慮して、入母屋造の瓦屋根や格子窓による東山らしい外観となるとともに、教室は南面採光で明るくゆとりある学習空間となる予定です。

また、平成23年4月以降に六原小学校敷地にも新校舎が建設される計画です。

東山区年表

西暦	元号	東山区	京都市	国内・国際
	明治			
1869	2	有濟、粟田、弥栄、新道、六原、清水、貞教、修道、一橋の各町組が結成、各町組に番組小学校開校	日本最初の小学校となる64の番組小学校開設	版籍奉還 スエズ運河開通
1871	4		京都博覧会	廃藩置県
1872	5	八坂女紅場学園、下京第十五区女紅場として設立		学制発布
1886	19	円山公園、京都市最初の公園として開設		自由の女神像（ニューヨーク）完成
1889	22		京都市制施行（特例により知事が市長を兼務） 第1回市議会開催	大日本帝国憲法公布
1890	23		琵琶湖疏水竣工	第1回衆議院議員総選挙
1891	24		日本最初の水力発電所である蹴上水力発電所完工・送電開始	大津事件
1895	28		平安遷都1100年記念事業 日本最初の市街電車(京都電気鉄道)開業 平安神宮創建 内国勸業博覧会 第1回時代祭	日清講和条約（下関条約）調印
1897	30	帝国京都博物館（現京都国立博物館）開館	京都帝国大学（現京都大学）創設 全国の町内会のモデルとなる共同組合設置	帝国図書館（現国立国会図書館東京本館）開館
1898	31		初代市長就任・市役所開庁（市制特例撤廃）	西郷隆盛銅像除幕（上野公園）
1900	33	都ホテル（現ウエスティン都ホテル京都）が国内最大規模のホテルとして創業	京都法政学校（現立命館大学）創立	パリオリンピック
1903	36		京都市動物園開園（日本で2番目）	ライト兄弟が人類初の動力飛行に成功
1910	43	京阪電鉄天満橋～五条間開業		大逆事件
	大正			
1915	4	京阪電鉄五条～三条間開通		第一次世界大戦開戦
1921	10	国鉄東山トンネル（今熊野～北花山間）開通		アインシュタイン、ノーベル物理学賞受賞
1922	11	月輪小学校（三橋尋常小学校）開校	全国水平社創立大会（岡崎）	ワシントン会議で海軍軍備制限条約等調印
1924	13	帝国京都博物館（現京都国立博物館）が京都市に移管、恩賜京都博物館と改称		パリオリンピック 阪神甲子園球場完成
1926	15	京都市立芸術大学の前身となる京都市美術工芸学校と京都市立絵画専門学校が今熊野に移転		十勝岳大噴火（死者144名）
	昭和			
1927	2		中央卸売市場開場（日本最初）	上野～浅草間に日本最初の地下鉄開通
1928	3		市バス営業開始 大礼記念京都大博覧会	大相撲ラジオ実況放送開始
1929	4	東山区誕生（上京・下京の2区を区分し、上京・左京・中京・東山・下京の5区となる） 南座新築記念顔見世興行	京阪電鉄京都～石山間、京都～坂本間の直通運転開始 普通選挙法による最初の市会議員選挙実施	ニューヨーク株式市場大暴落、世界大恐慌始まる
1930	5	都市計画風致地区として鴨川周辺・東山・北山等が初指定 東山区役所庁舎完成	第3回国勢調査（人口765,142人 東山区91,180人）	東海道線特急「つばめ」運転開始（京都～東京間7時間41分）
1931	6	今熊野小学校（一橋第二尋常小学校）開校	伏見市ほか26町村を京都市に編入 現阪急電鉄西院～大宮間の地下線開通	満州事変
1932	7		NHK京都放送局、放送を開始 人口100万人突破（市推計） トローリーバス運行開始	上海事変 5・15事件
1933	8	京津国道開通	京都美術館（現京都市美術館）開館	日本、国際連盟脱退
1934	9	円山公園の坂本龍馬・中岡慎太郎銅像除幕 京都第一赤十字病院開設	室戸台風襲来、過去最大の被害（市内死者185人、重軽傷者1,258人、全半壊家屋5,349戸）	溥儀が満州国皇帝に即位
1935	10	水害で鴨川氾濫、三条大橋や五条大橋など流失 祇園甲部歌舞練場（明治6年開設）が四条通花見小路下る西側から現在地に移転	第4回国勢調査（人口1,080,593人 東山区118,235人）	ベーブルースら米プロ野球団来日
1936	11		京都市電に初の女性車掌採用	2・26事件

HIGASHIYAMA 80th



①明治頃の円山公園



②明治頃の四条通



③明治20年頃の四条大橋



④明治頃の五条大橋



⑤昭和9年頃の五条坂陶器市



⑥昭和6年に流出した五条大橋

西暦	元号	東山区	京都市	国内・国際
	昭和			
1937	12	九条跨線橋開設		ヘレン・ケラー来日
1940	15	東山保健所開設	第5回国勢調査 (人口1,089,726人 東山区116,313人)	日独伊三国同盟調印
1941	16		市内全域に町内会結成 国民学校発足により学区制廃止	太平洋戦争勃発
1942	17	四条大橋竣工 (昭和10年の豪雨で損傷)	京都日出新聞など府下の諸新聞が京都新聞に統一	学徒勤労動員開始
1945	20	馬町に爆弾投下 (京都市最初・死者34人) 第3次建物疎開により、五条通・御池通・堀川通拡幅	顔見世を除き京都の年中行事の大半中止 市内の学童疎開開始 人口調査実施 (866,153人に激減)	広島、長崎に原爆投下 終戦
1946	21		大文字送り火復活 第1回国民体育大会、京都市を中心に開催	極東国際軍事裁判開廷 日本国憲法公布
1947	22	洛東中学校、月輪中学校開校 五条通、昭和20年の強制疎開による防火帯跡を利用して拡幅工事に着手	公選による初代市長選挙 5年ぶりに祇園祭山鉦巡行復活 第6回国勢調査 (人口999,660人 東山区110,954人)	日本国憲法施行 学校教育の6・3・3・4制発足 (この年は6・3制)
1948	23	弥栄中学校開校	市警察・市消防発足、市消防団結成	大韓民国建国、朝鮮民主主義人民共和国建国
1949	24	日吉ヶ丘高校開校	湯川秀樹、日本人初のノーベル物理学賞受賞	中華人民共和国建国
1950	25	都をどり、7年ぶりに再開	放火により金閣寺焼失 (昭和30年再建) 第7回国勢調査 (人口1,101,854人 東山区119,938人) 国鉄京都駅全焼 京都国際文化観光都市建設法公布	朝鮮戦争勃発
1951	26	東山区山科支所開設	現KBSラジオ開局	サンフランシスコ平和条約・日米安全保障条約調印
1952	27	清水坂市営駐車場開設 (日本最初の公営有料駐車場) 京都博物館が国に移管され京都国立博物館と改称	3代目国鉄京都駅竣工 市民しんぶん創刊	全国住民登録制度実施 ヘルシンキオリンピック
1953	28	平和観音 (霊山観音) 像建立 五条通・堀川通・御池通の拡張工事完成	市政協力委員制度創設	NHK日本初のテレビ放送開始 民放テレビ放送開始
1955	30	重要無形文化財 (人間国宝) 第1号に京舞の井上八千代氏 (四世) らが指定	市警察廃止、府警察に移管 第8回国勢調査 (人口1,204,084人 東山区128,552人)	森永ひ素ミルク事件
1956	31		京都市市民憲章制定 (日本最初) 京都市交響楽団発足 (日本最初の公営) 政令指定都市に指定	日本、国際連合加盟
1957	32	京阪電鉄と国鉄奈良線共用の東福寺駅開業	京都市平和都市宣言	南極観測隊、昭和基地建設開始
1958	33	東山老人憩いの家開設 (京都市最初) 祇園会館新築	比叡山ドライブウェイ開通 パリ市と友情都市盟約締結 10月15日を自治記念日に制定	1万円札発行 東京タワー完成 (高さ333m)
1959	34	五条大橋拡幅完成 東山ドライブウェイ開通	ボストン市と姉妹都市盟約締結	メートル法施行 ソ連宇宙ロケット月面到達 第1次安保闘争
1960	35	円山公園で新安保条約紛争等京都集會に3万人が参加	京都会館開館 第9回国勢調査 (人口1,284,818人 東山区138,645人)	ローマオリンピック
1961	36		日本最古のチンチン電車北野線廃止	ベトナム戦争開戦
1963	38		西京極スポーツセンター開設 ケルン市と姉妹都市盟約締結 阪急電鉄大宮～河原町間の地下線延伸 名神高速道路栗東～尼崎間開通	ケネディ大統領、ダラス市で暗殺
1964	39		京都タワービル完成 (高さ131m)	東海道新幹線(東京～新大阪間)開業 東京オリンピック
1965	40	四条大橋拡幅工事完成	フィレンツェ市と姉妹都市盟約締結 第10回国勢調査 (人口1,365,007人 東山区154,527人) 朝永振一郎氏、ノーベル物理学賞受賞	中国で文化大革命が始まる
1966	41	祇園祭の前祭と後祭を17日に1本化	古都保存法施行 (京都、奈良、鎌倉を対象) 国立京都国際会館開館	ビートルズ来日
1967	42	東山バイパス (五条通高架) 開通	近畿放送 (現KBS京都) テレビ開局	公害対策基本法公布
1968	43			3億円事件



⑦昭和24年頃の五条通



⑧昭和26年頃の東大路四条下る付近の町並み



⑨昭和29年頃の京阪五条踏切と牡蠣船



⑩昭和30年頃の登り窯の様子

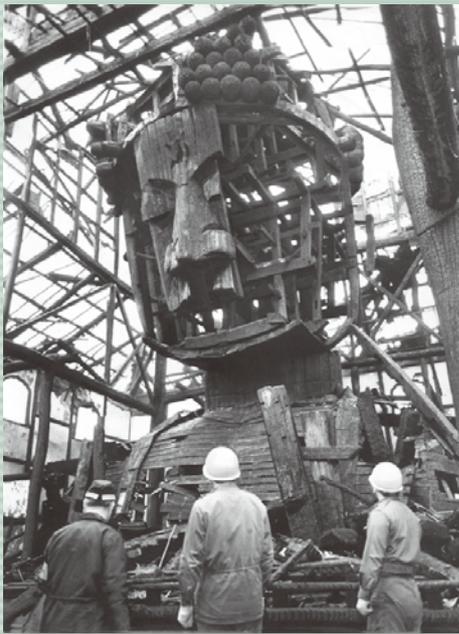


⑪昭和35年頃の五条通



⑫昭和38年頃の東大路五条西入付近

西暦	元号	東山区	京都市	国内・国際
	昭和			
1969	44		美大と音楽短大を統合し、市立芸術大学として発足 大学紛争激化	米アポロ11号、人類初の月面着陸
1970	45	宮川町歌舞練場新築	第11回国勢調査（人口1,419,165人 東山区174,892人） 四条通で初の歩行者天国実施	大阪万国博覧会 第2次安保闘争
1971	46	円山駐車場営業開始 京都パークホテル（現ハイアットリージェンシー京都） 開業	キエフ市と姉妹都市盟約締結	沖縄返還協定調印 ニクソン・ショック
1972	47		京の木（カソラ、シダレヤナギ、タカオカエデ） と花（サトザクラ、ツツジ、ツバキ）決定	札幌冬季オリンピック 浅間山荘事件 高松塚古墳で極彩色の壁画発見
1973	48	方広寺大仏殿焼失	マイカー観光拒否宣言	円の変動相場制へ移行 オイルショック発生
1974	49	三条大橋24年ぶりの改修完成	京都・西安友好都市宣言	国鉄湖西線山科駅～近江塩津駅間 開業
1975	50		第12回国勢調査（人口1,461,059人 東山区196,668人）	ベトナム戦争終結
1976	51	重要伝統的建造物群保存地区に産寧坂地区と祇園新 橋地区が選定 東山区を分区して山科区を設置	右京区を分区して西京区を設置（全11区）	モントリオールオリンピック
1978	53		市電全面廃止 世界文化自由都市宣言	新東京国際空港開港
1979	54	東山区50周年		アメリカと中国が国交樹立
1980	55	東山防災会議発足（11区初） 京都市立芸術大学、西京区大枝に移転	第13回国勢調査（人口1,473,065人 東山区62,077人） グアタラハラ市と姉妹都市盟約締結	モスクワオリンピック イラン・イラク戦争勃発
1981	56		ザグレブ市と姉妹都市盟約締結 地下鉄烏丸線京都～北大路間開業 福井謙一氏ノーベル化学賞受賞	神戸ポートアイランド博覧会
1982	57		全国に先がけて空き缶の再資源化を促進 する条例（空き缶条例）施行	ホテルニュージャパン火災（33 人死亡） 500円硬貨発行
1983	58	東山消防署新庁舎、東山合同福祉センター開設	第1回全国都道府県対抗京都女子駅伝 大会	東京ディズニーランド開園 大韓航空機墜落事件
1984	59			グリコ・森永事件
1985	60		第14回国勢調査（人口1,479,218人 東山区56,332人）	日本航空123便、群馬県御巣鷹山 に墜落 阪神タイガース日本一
1987	62	京阪電鉄東福寺～三条間地下化	第1回世界歴史都市会議 国際日本文化研究センター開設	国鉄6分割民営化によりJR発足
1988	63		地下鉄烏丸線京都～竹田間延伸開業 第43回国民体育大会（京都国体）	ソウルオリンピック 青函トンネル開通
	平成			
1989	元		京都市制施行100周年	消費税3%導入 ベルリンの壁崩壊
1990	2	東山区民ふれあいひろば、円山公園で開催（～平成15年）	第15回国勢調査（人口1,461,103人 東山区51,171人） 地下鉄烏丸線北大路～北山間延伸開業	国際花と緑の博覧会
1991	3		第1回 芸術祭典・京	湾岸戦争勃発 ソビエト社会主義共和国連邦崩壊
1993	5		京都市健康増進センター開館	サッカー Jリーグ開幕
1994	6	清水寺など「古都京都の文化財」がユネスコ世界文化 遺産に登録 第1回京都まつり開催、区民パレード隊参加	平安建都1200年記念事業 京都市女性総合センター「ウイングス京都」 開館	関西国際空港開港 大江健三郎氏、ノーベル文学賞受賞



⑬昭和48年に消失した方広寺大仏殿



⑭昭和53年に全面廃止された京都市電



⑮昭和62年に地下化された京阪本線東福寺～三条間



⑯蹴上を走る地下化前の京阪電車



⑰円山公園で開催されていた頃の東山区民ふれあいひろば

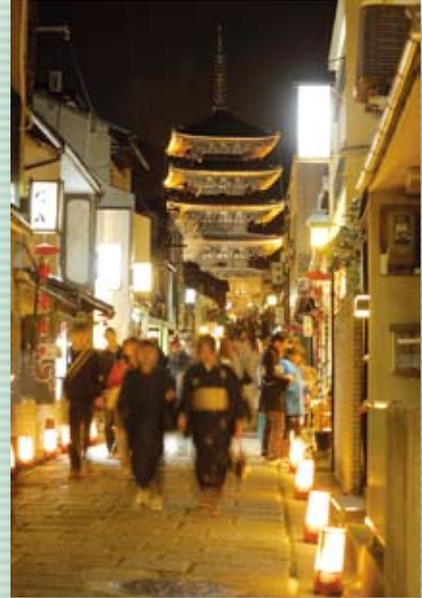


⑱京都まつりの東山区民パレード隊

西暦	元号	東山区	京都市	国内・国際
	平成			
1995	7	東山イメージソング「東山のひかり」公募により決定	第16回国勢調査（人口1,463,822人 東山区48,241人） 京都コンサートホール開館	阪神・淡路大震災 地下鉄サリン事件
1996	8	市民しんぶん東山区版『こちら東山』創刊 東山シンボルマークを公募により決定	プラハ市と姉妹都市盟約締結 京都市勤業館「みやこめっせ」開館	アトランタオリンピック
1997	9		京都駅ビル開業（4代目） 地球温暖化防止京都会議 地下鉄烏丸線北山～国際会館間延伸開業 地下鉄東西線醍醐～二条間開業	消費税5%に改定
1998	10	「ねねの道」完成 東山区総合庁舎起工式 東山区基本計画策定懇談会設置	京都市自治100周年	長野冬季オリンピック 明石海峡大橋開通
1999	11	東山区70周年 祇園町南側、宮川町、八坂通の3地区を歴史的景観 保全修景地区に指定	普州市（韓国）とパートナーシティ提携 子育て支援総合センター「こどもみらい 館」開館 東京赤坂に「京都館」開館	欧州連合（EU）の単一通貨ユーロ 誕生
2000	12	水道局東山営業所新築（東大路通松原上る）	第17回国勢調査（人口1,467,785人 東山区44,813人） 京都市芸術センター開設	九州・沖縄サミット シドニーオリンピック
2001	13	「区民の誇りの木」決定 東山区基本計画「東山・まち・みらい計画2010」策定 東山区総合庁舎竣工 東山・まち・みらい塾開講	「21世紀京都幕開け記念事業・京都21」 実施 京都市基本構想・基本計画策定	米国同時多発テロ 明石花火大会歩道橋事故
2002	14	花見小路通（四条～建仁寺）電線類地中化、石畳舗装 完成 貞教小学校と修道小学校が統合し東山小学校開校 三条京阪駅前広場完成	田中耕一氏ノーベル化学賞受賞 京エコロジーセンター開館 京都アクアリーナ開館	サッカーW杯日韓共同開催 住民基本台帳ネットワーク稼動
2003	15	第1回「京都・東山花灯路」 文化財建造物保存技術研修センター開所 東大路通交通実態調査を実施	第3回世界水フォーラム京都市で開催 「ひと・まち交流館」開館 市役所本庁舎ISO14001を取得	新型肺炎SARS大流行
2004	16	京都市長選で電子投票実施（東山区のみ） 区役所ホームページ開設 有済小学校と栗田小学校が統合し白川小学校開校 宮川町通の石畳舗装完成 東山交通対策研究会設立 東山区民ふれあいひろば、洛東中学校で開催（～平成20年）	地下鉄東西線醍醐～六地蔵間延伸開業 花き地方卸売市場「はなみやこ」開設 第1回京都文化祭典	新潟県中越地震 スマトラ沖地震 アテネオリンピック
2005	17	東山3K（観光・交通・環境）協力金会議創設 「やすらぎ・ふれあい館」完成 東山区まちづくり推進会議設置	京都迎賓館完成 京北町（北桑田郡）を右京区に編入合併 第18回国勢調査（人口1,474,811人 東山区42,464人） 全区役所・支所などでISO14001認証	JR福知山線脱線事故 地球温暖化防止のための京都議定書発効 愛・地球博（愛知万博）
2006	18	六原公園開園	京都国際マンガミュージアム開館 京都いつでもコール開設 家庭ごみ有料指定袋制実施	第1回ワールドベースボールクラシック 大会（日本優勝）
2007	19	東山区北部7小中学校の統合による小中一貫校新設 の地元要望書提出	伏見桃山城運動公園供用開始 新景観政策実施 「路上喫煙等の禁止等に関する条例」施行	郵政事業が民営化され、JP日本郵政 グループが発足
2008	20	京都女子大学・京都女子短期大学と東山区役所が「地 域連携・協力に関する協定書」締結 来訪者向けホームページ「歩いて楽しむ東山」開設 清水地域に防災水利施設整備 京阪電車の駅名「四条」を「祇園四条」に、「五条」を「清 水五条」に変更	地下鉄東西線二条～太秦天神川間延伸 開業 右京区役所等複合施設「サンサ右京」開館 新十条通「稲荷山トンネル」開通 入洛観光客数5000万人達成	北海道洞爺湖サミット 小林誠氏、南部陽一郎氏、益川敏 英氏、ノーベル物理学賞受賞 下村脩氏、ノーベル化学賞受賞
2009	21	東山区80周年 東山開晴館（開晴小・中学校）起工（平成23年4月開校予定） 東山区民ふれあいひろば、一橋小学校で開催 東山区基本計画策定委員会設置 五条通に清水五条陶板の散歩道完成	京都祇園祭の山鉾行事がユネスコ無形文 化遺産に登録 京都 知恵と力の博覧会 京都ハンナリーズ、bjリーグ（プロバスケット ボールリーグ）に参戦	第44代米大統領にオバマ氏就任 新型インフルエンザ、世界規模で 流行



⑱平成11年に行われた東山区70周年パレード(京都まつり)



⑳平成15年から始まった「京都東山・花灯路」



㉑平成16年に創設された東山3K(観光・交通・環境)協力金会議により配置された交通誘導員



㉒平成20年に整備された清水地域の防災水利施設

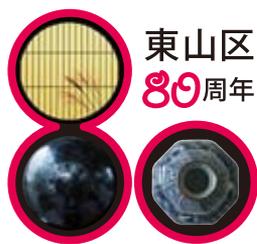
東山区80周年ロゴマーク

東山区80周年ロゴマークのデザインは、京都女子大学学生部長（家政学部生活造形学科教授）の出井豊二氏が制作されました。もてなしの空間をイメージした円窓を80の数字の中に配置し、円窓に挿入する写真は、季節や用途に応じて、四季折々の景色や様々な観光資源、伝統産業など東山区の多彩な表情を伝えることができる変化のあるロゴマークとなっています。東山区80周年を記念する多くの事業に活用されています。



写真提供(敬称略)：京都新聞社(③、⑥、⑦、⑪、⑬、⑭、⑮)、京都府立総合資料館(黒川翠山撮影、表紙右4段目)、国際日本文化研究センター(浅野喜市撮影、⑩)、国立国会図書館(①、②、④)、勝本庄一(⑯)、木村一雄(表紙右2段目)、木村澄江(⑧)、小寺康正(表紙右1・5・6段目、⑨、⑫)、浜口昭治(表紙右3段目)、東房子(⑤)

上記以外にも本誌の作成に当たって、多くの方に写真提供や情報提供など御協力いただきましたことをお礼申し上げます。



東山区80周年記念誌

平成21年12月発行

京都市印刷物 第213094号

東山区役所区民部まちづくり推進課

京都市東山区清水五丁目130番地の6

☎075-561-9114